

DEPART COCOON

(兵庫県神戸市 デザインクリエイティブセンター神戸 (KIITO))

コンセプト

かつて世界有数の貿易港として世界の窓口であった神戸が、再びヒト・モノ・情報が行き交う場として発展することを目指し、歴史的建築物を活用して、「デザイン都市・神戸」から日本の魅力を世界に発信する。

事業概要

- 提案事業者：株式会社ナビバード／GREENBLUE株式会社
- 採択事業費：25,000千円

歴史的建築物「旧神戸生糸検査所」を活用した施設（KIITO）の空きスペースをリノベーション。

- ・海外からの来場も想定し、英語・日本語表記で日本全国の産品を展示紹介・販売。PRイベント等も実施。
- ・デザイナー向けのラボを設置し、KIITOに集積した産品や匠の技をイノベーション。デザイナーを集積し、企業とのマッチングにより活動の場を提供。

採択理由と主な審査意見

- ・歴史的建造物の空きスペースを活用して、優れた産品やデザインを世界に発信する拠点となることが期待される。

※港湾地域に位置しており、日頃から周辺地域ににぎわいが生まれるよう工夫を続けることが必要。

兵庫県神戸市 デザインクリエイティブセンター神戸 (KIITO) 【現況】



DEPART COCOON (兵庫県神戸市 デザインクリエイティブセンター神戸 (KIITO))

—その地その地の役割—
このリノベーションを提案いたします。



攻めたつ山は かつて森木も無く、山を背に深い海。

何度かの水害にも水害に見舞われたこの地に 先人は植栽をし、赤道を超えても変わらぬ水質をもつ 貴重な水を便りにこの水を求め、大海よりの船はここに立寄り、港文化は栄華を極めました。

ここKIITOは 蚕を繭に換価し、この港より一産業が旅立ちました。

しかしながら1980年神戸港の貨物取扱量は世界第三位でしたが、阪神、淡路大震災の影響から急落し、震災より20年経過した現在は52位と神戸港の衰退は際立ちます。

多くの技を持つ神戸、西に播磨、山を越え但馬も控えています。

日本全土にも未だ、どれほどの価値があるのか気付かぬ技もマーケティングに沿ったデザイン力で換価し、この国の持つ技をこの地より海外へ発信する。

それが神戸の立ち位置、そしてKIITOの役割、技を次世代に繋ぐフィールドとし、このリノベーションを提案いたします。

「KIITO」はデザインを抛りどころに人々の生活に採り入れ、より豊かに生きることを提案し、世界へつなぐデザイン拠点となることを目指して管理されています。

神戸港そして神戸の街を再び世界に開かれた窓として日本文化が生み出す優れた産品、製品を世界に羽ばたかせる空間としてKIITOを有効活用すべく提案します。

具体的な活用方策としては、空間の中の最大区画でまずは昨年 日本郵政海外郵送No.1実績のナビバード社が日本全国の産品を展示紹介(説明は日本語・英語で表記)します。

それ以外の小規模な区画には、デザイナー向けのラボを配置し、KIITOに集積した産品や匠の技をイノベーションするUNESCOデザイン都市こうべに集積するデザイナー達の活動の場を提供します。

かつて繭を生糸に生まれ変えさせたが如く、世界へ向けてのものづくり素材が付加価値の高い製品へと生まれ変わり羽ばたく場として相応しい空間へとデザインしていきます。

デザインのイメージとしては、生糸の検査所であったという歴史的背景を踏まえ繭をモチーフとしたデザインをキーとして設計しました。

